

おしおきの じいじ

こんこん　こここん、とんとん　とんとことん

「ああ、たのしいなあ。」

きつつきは　きょうも　たのしく　きを　つついて　います。

こんこん　こここん、とんとん　とんとことん

そんなあるひ、

もりに　りすの　かぞくが　やってきました。

「よきそうな　きは　みんなだれかが　すんで　いるわね。」

「おとうさん、この　きは　どうかな。」

「この　きは　かたそうだ。わたしたちの　はでも　あなを　あけるのに

一しゅうかん　は　かかるだろう。」

「こまったわねえ。」

それを　きいた　きつつきは、

「ぼくに　まかせて。」

と いいました。

「おねがいします。きつつきさん。」

「おやすい ごようだよ。」

きつつきは はりきりました。

こんこん こここん、

とんとん とんとことん

いつもの ちょうしで さっそく

つつき はじめました。

すぐに ふかい あなが あきましたが、三にんで すむには、あなを もっと

ひろく しなければなりません。

しばらく つづけましたが、それでも まだまだです。

さすがの きつつきも くたくたに なりました。

「あなたの じまんの くちばしでも たいへんなのだから、よほど かたい

きなんだ ろうね。」

「ほかの きを さがすことに するよ。」

りすの かぞくは ざんねんそうに いいました。



そこへ、とうさんきつつきが やってきました。

とうさんきつつきは、きつつきの しごとの めいじんです。

「くちばしを こうやって ごらん。」

と おしえて くれました。

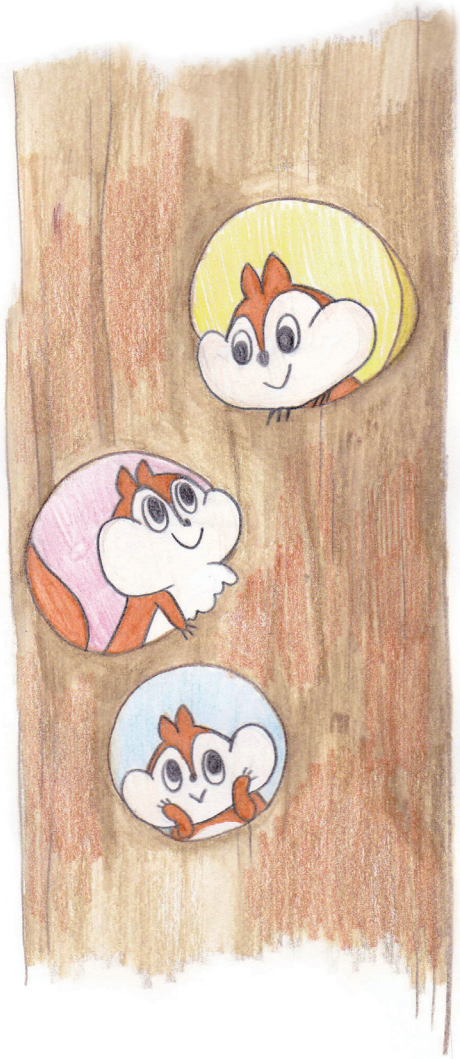
こんこん こここん、とんとん とんとことん

おとうさんの いうとおりに やって みると、あつというまに

三にんぶんの あなが あきました。

「ありがとう」

りすの かぞくは、てを たたいて よろこびました。



(関 祐一作)

きつつきの しごと

(低学年 4-(2))

(1) ねらい

みんなのために働くことに喜びを感じ、進んで人の役に立とうとする心情を育てる。

(2) 資料の特質

児童が身近に感じるきつつきの子が主人公である。本資料は、りすの家族の家族づくりを助けるためにきつつきの子は張り切るが、途中うまくいかなくなってしまふ。父親きつつきのアドバイスによって仕事を完成させるという物語である。りすの家族の助けになりたい一心でがんばるきつつきの子の心情に十分共感させねらいに迫りたい。

(3) 展開例

- 1 きつつきについて知る。
- 2 資料「きつつきの しごと」を読んで話し合う。
 - ①どんな気持ちからりすの家族を助けようとしたのでしょうか。
 - ・困っていて大変そうだな。ぼくが何とかしよう。
 - ②「ほかのきをさがすよ」とりすに言われたとき、きつつきの子はどんなきもちだったでしょう。
 - ・りすさんに悪いことをしたな。
 - ・あきらめるのは残念だな。
 - ③「ありがとう」とりすの家族から言われたとき、きつつきはどんなことを考えたでしょう。
 - ・役に立ててうれしいな。
- 3 自分がしている仕事について自分を振り返る。
- 4 教師の話を聞く。
 - 仕事をすると相手も自分もうれしくなる内容を話して、仕事の大切さについてまとめる。

(4) 指導上の留意点及び工夫

展開例3では、「きつつきくん、ぼくわたしにもこんなことがあったよ」と教えてあげようと呼びかけ、手紙形式のワークシートを書かせるようにする。

〔本文イラストは酒井桃華による〕